

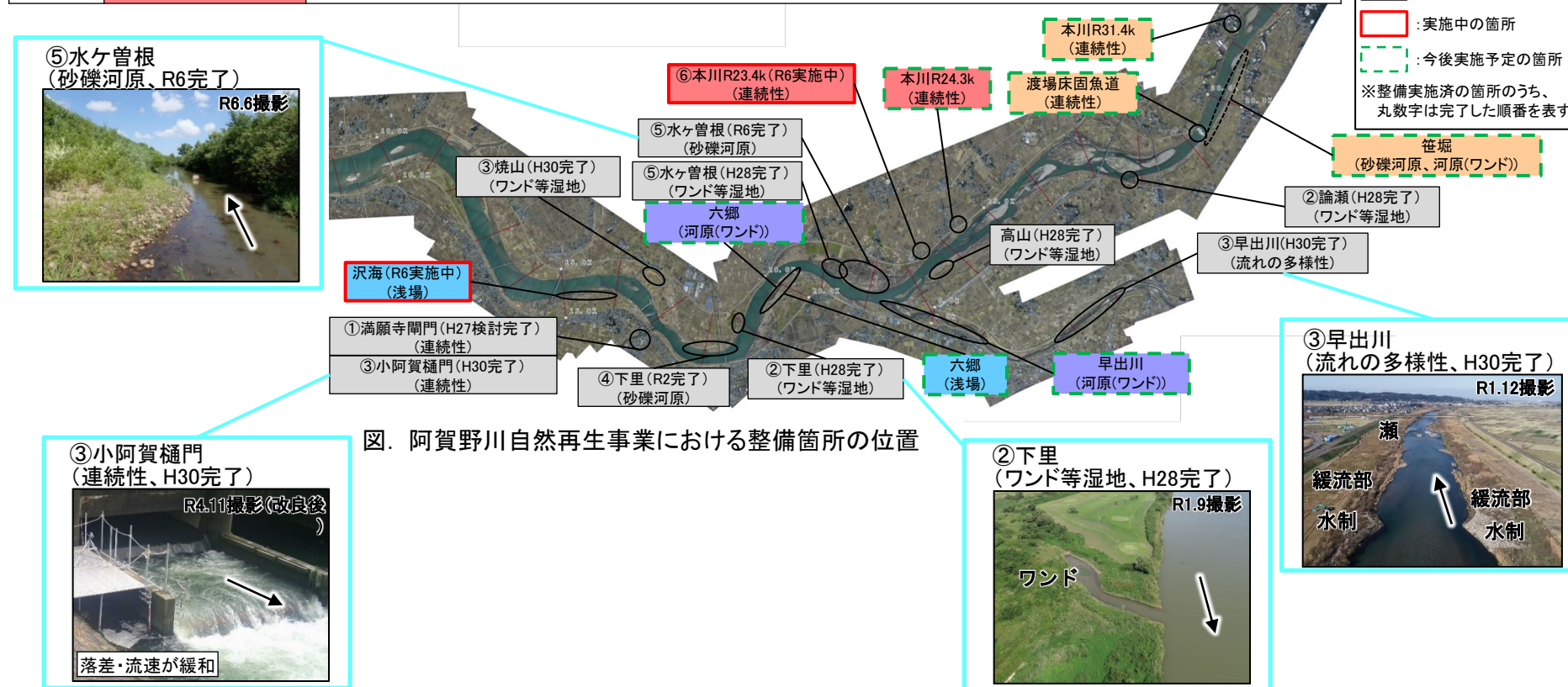
阿賀野川水系環境整備事業 事業実施箇所

- ・阿賀野川自然再生事業は、阿賀野川らしい多様な生きものを育む、豊かな河川環境の再生を目標に進められている。
- ・短期計画（H25～R3）では、ワンド等湿地の再生、砂礫河原の再生、流れの多様性の再生、連続性の確保を実施した。
- ・中期計画（R4～）では、河原（ワンド）の再生、浅場の再生、連続性の確保を実施中である。

表. 阿賀野川における自然再生事業の整備メニューと整備の目的

段階	整備メニュー	目的
短期計画	ワンド等湿地の再生	・幼稚魚の生息場、カモ類等の採餌・休息場等となるワンドを再生する
	砂礫河原の再生	・河原植物やコアジサシ・コチドリ等鳥類の生息・生育・繁殖環境となる砂礫河原を再生する
	流れの多様性の再生	・捷水路事業等により河道が直線化され、流れが単調化した早出川において、多様な流れを再生する
	連続性の確保	・アユやサケ、モクズガニ等の遡上経路となる小阿賀野川について、河道の縦断的な連続性を確保する
中期計画	河原（ワンド）の再生	・河原植物が生育し、コチドリ等の鳥類が利用する砂れき河原、稚魚のゆりかごとなるワンドを再生する
	浅場の再生	・冬季にはハクチョウ等のねぐらとなり、サギ類の生息・採餌場となる浅場、水際にはヨシなどからなる湿性環境を再生する
	連続性の確保	・支川、水路、水田など耕作地を利用するドジョウ、タナゴ、ナマズ等の魚類の、本川と支川、水路間の連続性を確保する

凡例	
	: 整備実施済（短期）
	: 整備実施済（中期）
	: 河原（ワンド）の再生
	: 浅場の再生
	: 連続性の確保
	: 河川改修による整備
	: 実施中の箇所
	: 今後実施予定の箇所
※整備実施済の箇所のうち、丸数字は完了した順番を表す	



阿賀野川水系環境整備事業 事業実施箇所

- ・「阿賀川上流域自然再生事業」の事業実施区間(21-27k)の礫河原への変化は、事業後に立て続けに発生した出水の影響もあり、事業後の平成27年時点で当初目標としていた昭和61年当時の礫河原面積を達成できた。
- ・事業後に継続してきたモニタリング成果を踏まえ、今後「阿賀川中流域自然再生事業」として13-21kへも展開していく。
- ・13-21k区間は、宮川合流点(阿賀川13k)～蟹川橋上流(同21k)の約8km程度の区間である。
- ・13-21k区間への展開にあたっては、環境特性及び河道特性を分析し、抱える課題を踏まえ目標や手法を決定し、事業箇所選定を行う。



写真 阿賀川上流域自然再生事業の実施前後における河道の変遷



写真 確認された礫河原の動植物

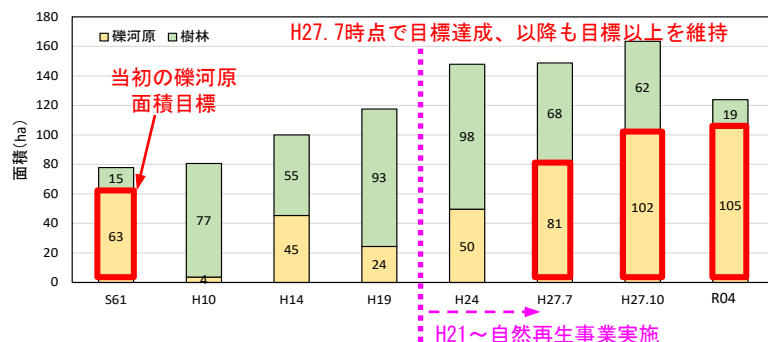


図 礫河原面積の経年変化

- ・阿賀川上流域自然再生事業(21-27k)では事業後、単列砂州から複列砂州へ流路形態が変化
 - ・礫河原面積が増加し、礫河原性の動植物を確認
- ↓
- 21-27kでの成果を踏まえ、同じセグメントである13-21kに阿賀川中流域自然再生事業を、展開していく

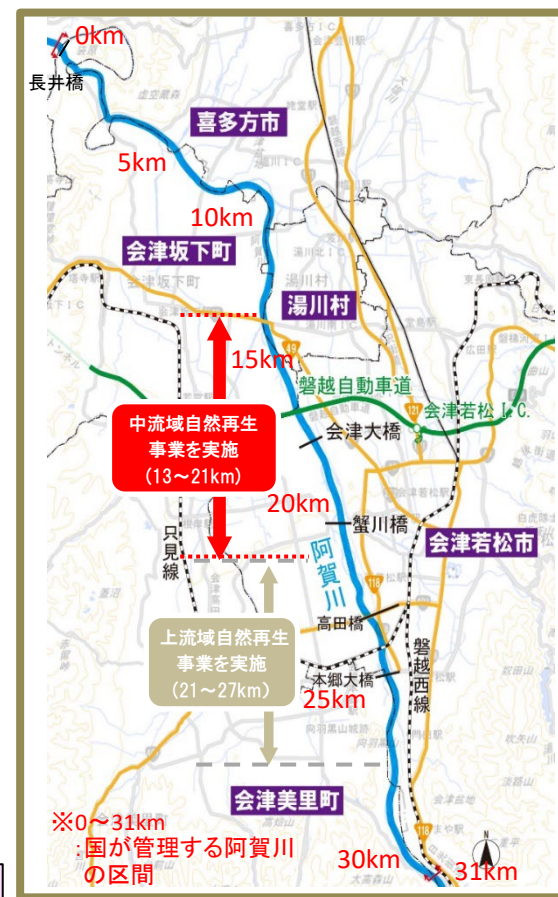


図 阿賀川における自然再生事業の対象範囲